

2017年

ホームページへGo!→
スマホで教室便りが見られます



教室だより 12月

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

クリスマス

皆さんのご家庭では、クリスマスはどのように過ごされていますか？

子どもごころ、朝起きたら枕元にプレゼントが置いてあって、「サンタさんが来た！」と喜んだ経験をお持ちの方も多いのではないかと思えます。自分が親になって、クリスマスの朝、普段はなかなか起きないわが子が、この日に限ってガバッと飛び起きて枕元のプレゼントを発見し、これ以上ない笑顔を見せてくれると、愛おしい思いがこみあげてきますよね。アメリカのご家庭では、クリスマスのプレゼントはその2週間くらい前からツリーの下に置かれ、クリスマスが近づくにつれそのプレゼントは山のように増えていくことがあるようです。これは、親戚や近所の人が集まってパーティーをするたびに、どんどんプレゼントを置いていってくれるからなのだそうです。そして、子どもたちはみんなでそれを開けるのを楽しみにクリスマス当日を迎えるのです。このように、サンタさんが登場しないケースもあるんですね。海外でも、クリスマスというのは家族でお祝いし、楽しむことがメインで、あまり宗教的な意味合いの強いものではないのかもしれないですね。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“まず学習習慣をつけることが大切”

学力をいきなりつけようとしても、それが“強い”勉強になっていけば、なかなか長続きしないものです。まず、学習習慣をつけるようにしましょう。そのためには、かなりやさしい内容からスタートし、短時間にたくさん練習する。そうして徐々に集中して学習できる時間を長くし、学習内容も高めていくようにします。子どものやる気を「むりなく」「むだなく」学習習慣に結びつけるために、特に入会初期においては公文式では次のようにしています。

①「むりなく」…一日分の学習は「もう少しやりたい」というぐらいの腹八分目にとどめます。そして、また明日もやりたいという気持ちを育てます。

②「むだなく」…次の段階に進むために必要なことのみにしぼった教材構成でむだがありません

2017年 12月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23 <small>天候等により</small>
24	25	26	27	28	29	30
31						

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

12月分の会費引き落としは11月28日(火)です。よろしくお願いいいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

子どもに疑問を持たせる

小学生に上がる前の小さい子どもは、何でも疑問に持ち尋ねます。

「ねえ、あれ、なあに？」 「〇〇ってなあに？」 「どうして〇〇は、□□なの？」

親も大人も初めは喜んで答えますが、これが、四六時中続くと、だんだん面倒になり、つつい軽くあしらったり、適当な答えをして、その場を逃れてしまいがちです。そうした子どもも、小学校に入ると、少し質問がレベルアップしてきますが、いつしか気づくと、だんだんと質問をしなくなってしまいうものです。自分でも考えるようになる、調べられるようになる、という面がないわけではありませんが、多くは、かつて真面目に答えてもらえなかった“親（大人）へのあきらめ”です。その証拠に、小学低学年生は、学校の先生には何でも疑問をぶつけます。家庭では、そんな時期こそ、積極的に子どもたちに語りかけましょう。本当は、いろいろなことを聞きたいのです。疑問が山ほどあるのです。親や大人でも答えられないような、難問もたくさん抱えているのです。大人が知識をひけらかすのではありません。子どもに疑問を持たせるのです。当たり前と思わず、いろいろ分からないことがある、不思議なことがある、知らないことがある、ということを実感させるのです。「すごいでしょ、これ…」と少し大げさくらいに驚きを見せることでも、子どもの関心を引きます。「こんな大きな木も、もとは小さな種だったんだよ…」そう、語りかけることもできます。

子どもが話しに乗ってきて、興味を持つのが特長ですが、親や大人は、子どもに刺激を与え続けることが大切です。どこかで子どもの興味にヒットし、それをふくらませるかも知れません。つまり、大人にとっても、当たり前前のことを当たり前前と思わない、物ごとを客観的に見る態度が必要なのです。

最近さまざまな便利なものがあります。パソコンや携帯電話も当たり前前の中になりました。子どもにとっては、そうした文明の利器も疑問だらけのはずです。大人はそうした疑問すら思わない、当たり前前に使っているものであっても、子どもにとっては新鮮で、不思議だらけなのです。もちろん自然や宇宙のことも分からないことだらけでしょう。

そうした疑問をふくらませてあげてください。質問されて答えられなくなっていくのです。子どもの疑問は、そうしたもののばかりかも知れません。知ったかぶりをしないで、一緒に調べよう…、という態度も必要です。

ちょっとした大人のひと言が、子どもに疑問を持たせ、いろいろなことに興味や関心を抱かせます。それが、『ものを考える』ことにつながっていくのです。

親の喫煙

両親に喫煙・飲酒習慣があると、その子供が中高生になって喫煙・飲酒する割合が、両親に習慣がない場合に比べていずれも大きく、特に父親よりも母親の影響を受けているという調査結果（厚生労働省）が発表された。それによると、特に顕著なのが喫煙する母親の娘（女子）で、喫煙率が1.81倍に及ぶのだという。父親の場合の1.33倍と比べ、母親の影響が特に大きいことを示している。また、息子（男子）の場合、同じく母親が喫煙している場合は1.53倍で、父親の場合の1.25よりもやはり高い。いずれも、子どもは母親の行動の影響を強く受ける、という科学的な結果となった。昨今は、父親も家（部屋）では喫煙しない傾向があるが、母親が喫煙する場合は、両親そろって愛煙家というスタイルが珍しくないのかも知れない。それゆえに、身近なところにたばこがあり、手を出しやすいのだろう。確かに、私の経験でも、早くから喫煙をする子どもの家庭では、両親のどちらかが喫煙している場合が多かった。記事には、「喫煙する男子の両親の6割以上が、女子では両親の4分の3近くが、子供は吸っていないと思っている」とあったが、まさに親は自分自身のことしか見えていないと言えよう。たばこは吸わない人にとっては、微かな臭いでも気がつき、不快感を抱く。しかし逆に、喫煙者にとっては、その臭いには慣れてしまっていて、特に違和感を感じないようです。となれば、親が喫煙をしている場合、子どもがたばこを吸っても、その臭いが分かりにくい、ということにもなります。

いつの時代も、子どもは大人の行動を真似るものですよ。

子供の前では吸わないとか、別の場所で吸うとか配慮をお願いします。

コン、コンと咳が出る子は、風邪ではなく、たばこの煙受動影響で『喘息ぜんそく』かもしれません。

冬休みの宿題は

基本的に 日分お渡しする予定です。

年末年始のあわただしい中での学習習慣はくずれやすくなります。宿題のやり残しは、お子さまの学習意欲の減退につながります。冬休みの学習を、ご家庭でお子さまと話し合ってくださいようお願いします。

宿題の増減についてご希望がございましたら、最終学習日までにお申し出ください。

